形式：皮膚がん MM-CQ1-3

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Sunscreen use and the risk for melanoma: a quantitative review.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MM-CQ1-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅰ ）	
	Pubmed ID	14678916	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ann Intern Med	
	雑誌 ID		
	巻	139	
	号	12	
	ページ	966-78	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語　2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	2003	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Dennis LK	アイオワ大学
	その他著者 1	Beane Freeman LE	同上
	その他著者 2	VanBeek MJ	同上
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	サンスクリーンの使用がメラノーマの発生に与える影響を明らかにする
	データソース	1996～2003 年に Medline に収載された論文
	研究の選択	メラノーマ発症前のサンスクリーン使用を報告した分析的研究
	データ抽出	2人の著者が独立してデータを抽出
	主な結果	標準的なメタアナリシスの手法により、文献ごとのメラノーマ発症の OR を集積。その結果、18 の臨床研究におけるメラノーマの発症率はサンスクリーンの恒常的な使用により影響を受けていなかった。サンスクリーンの使用頻度や使用年数もメラノーマの発症率に影響を与えていなかった。
	結論	恒常的なサンスクリーンの使用はメラノーマの発症率に影響を与えない。新しい組成のサンスクリーンの使用による効果の評価には今後さらに数十年が必要である。
	備考	文献整理番号：メラノーマ　Q 1　文献番号 3
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	高田　実
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅰ） サンスクリーン使用の影響はスキンタイプにより大きく異なるので本研究の解釈には注意が必要。本研究でもスキンタイプⅠ、Ⅱの人々に関しての結果はほぼ一定であるが、日本人のようなスキンタイプⅢ、Ⅳの人々に関しての結果はばらつきがある。また、サンスクリーンについては、UVA に対する防御効果や落ちにくさなどその予防効果に影響を与える多くの要因があり、今後の検討が必要。

形　式：皮膚がん MM-CQ1-4

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Association of UV index, latitude, and melanoma incidence in nonwhite populations--US Surveillance, Epidemiology, and End Results (SEER) Program, 1992 to 2001.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MM-CQ1-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅴ ）	
	Pubmed ID	15837865	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	141	
	号	4	
	ページ	477-81	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	2005	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Eide MJ,	ブラウン大学
	その他著者 1	Weinstock MA	同上
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	アメリカにおける非白人種のメラノーマの発生と紫外線の関係を明らかにする	
	研究デザイン	記述研究	
	セッティング	アメリカ合衆国 Surveillance, Epidemiology, and End Results (SEER) Program を構成する 11 の癌登録データベース	
	対象者	1992 年～2001 年に登録されたメラノーマ患者	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 2 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 22 ）	
	介入（要因曝露）	紫外線暴露指数、居住地緯度	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	メラノーマの発生率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	白人のみで紫外線暴露指数とメラノーマの発生率の有意の相関（r=0.85, p=.001）。黒人、アメリカインディアン、ラテンアメリカ系住人、アジア人では優位の相関なし。居住地の緯度とメラノーマの発生率の有意の逆相関も白人にのみあり（r=-0.85, p=.001）、他の人種にはなし。	
	結論	アメリカ合衆国の有色人種では、メラノーマの発生と紫外線が関連するという証拠はない。	
	備考	文献整理番号：メラノーマ　Q1　文献番号 4	

レビューワーコメント	レビューワー氏名	高田　実
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　V　） アメリカ合衆国における調査であり、アジア/ポリネシア系住民、黒人、アメリカインディアン、ラテンアメリカ系住人がすべて含まれる。しかし、この調査におけるアジア/ポリネシア系住民の人口 10 万人あたりのメラノーマ年間発生率は 1.3～1.6 で、日本における発生率に近く、このデータは日本人にもほぼ適応できると考えられる。

形　式：皮膚がん：MM-CQ2-1

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Naevi and pigmentary characteristics as risk factors for melanoma in a high-risk population: A case-control study in New South Wales, Australia	
	論文の日本語タイトル	ハイリスク住民におけるメラノーマ発生の危険因子としての母斑と皮膚色の特徴：オーストラリア、ニューサウスウェールズにおける症例対照研究	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での日次名称	MM-CQ2-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（IV）	
	Pubmed ID	8759605	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Int J Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	67	
	号	4	
	ページ	485-91	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　(2)	
	発行年月	1996 Aug	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Grulich AE	Dept. of Public Health, Univ. of Sydney, Australia
	その他著者 1	Bataille V	St. Georges Hospital, London, UK
	その他著者 2	Swerdlow AJ	London School of Hygiene, London, UK
	その他著者 3	Newton-Bishop JA	Royal London Hospital Medical College, London, UK
	その他著者 4	Cuzick J	Imperial Cancer Research Fund, UK
	その他著者 5	Hersey P	Royal Newcastle Hospital, Sydney, Australia
	その他著者 6	McCarthy WH	Royal Prince Alfred Hospital, Sydney, Australia
	その他著者 7		

一次研究の 8 項目	目的	メラノーマ多発地域の白人におけるメラノーマ発生危険因子としての母斑の個数と皮膚色の評価	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	Sydney および Newcastle のメラノーマ専門外来	
	対象者	1989-1993 年のメラノーマ患者 244 人、対照 276 人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(2)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(14)	
	介入（要因曝露）	母斑の個数の計測、日光暴露への皮膚の反応パターンの評価	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	全身の 2mm 以上の母斑の個数とメラノーマリスク	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	Atypical nevus とメラノーマリスク	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	日光暴露による sun-tan の有無とメラノーマリスク	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	1) 母斑が 100 個以上の者は 10 個未満の者に比べ、メラノーマの発生リスクが 12 倍に上がった。 2) 多発性 atypical nevus, 多発性の大型母斑、sun-tan 能の欠如などもメラノーマ発生の強い危険因子であった(Odds ratio が 5 以上)。 3) 男女別にみた母斑の身体分布はメラノーマの分布と類似し、背中のメラノーマは背中の母斑の数の多さと有意に相関した。	
	結論	母斑の個数、分布、sun-tan 能はメラノーマ発生に有意に相関する。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	斎田俊明	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV） メラノーマ多発地域の白人において母斑の個数、sun-tan 能がメラノーマ発生の有意な危険因子であることを示した論文。	

形　式：皮膚がん：MM-CQ2-2

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Risk of cutaneous melanoma in relation to the numbers, types and sites of naevi: A case-control study	
	論文の日本語タイトル	母斑の数とタイプ、部位との関連でみたメラノーマの発生リスク：症例対照研究	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MM-CQ2-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	8664138	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	73	
	号	12	
	ページ	1605-11	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　(2)	
	発行年月	1996 Jun	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Bataille V	ICRF Skin Tumour Laboratory, UK
	その他著者 1	Newton-Bishop JA	同上
	その他著者 2	Sasieni P	Dept. of Mathematics, Statistics and Epidemiology, Imperial Cancer Research Fund, UK
	その他著者 3	Swerdlow AJ	Epidemiological Monitoring Unit, London School of Hygiene and Tropical Medicine, UK
	その他著者 4	Pinney E	Dept. of Mathematics, Statistics and Epidemiology, Imperial Cancer Research Fund, UK
	その他著者 5	Griffiths K	同上
	その他著者 6	Cuzick J	同上
	その他著者 7		

	目的	通常型母斑と atypical nevus のメラノーマ発生へのリスクの検討	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	Thames 川の北東部地域の病医院	
	対象者	同上地域の 1989-1993 年のメラノーマ患者 426 人と対照 416 人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(2)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(14)	
	介入（要因曝露）	皮膚科医による全身の 2mm 以上の母斑（通常型と atypical nevus）の個数と分布の調査	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	通常型母斑の個数とメラノーマ発生リスク	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	2	atypical nevus の個数とメラノーマ発生リスク	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	3	skin type、母斑の部位などからみた母斑とメラノーマの関係	1.主要 2.副次 3.その他（2）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	1) atypical nevus (AN)(Newton らの scoring system によって定義：Melanoma Res 4:199, 1994)がもっとも有意なメラノーマ発生のリスク因子であり、AN が 4 個以上の者の odds ratio(OR)は（0 個のリスクを 1 として）28.7(95%CI:8.6-95.6)となった。 2) 全身の通常型母斑の個数もメラノーマ発生の重要な危険因子で、100 個以上の者の OR は（4 個までの者のリスクを 1 として）7.7(3.8-15.8)となった。 3) 日光暴露部の母斑のみでなく、非暴露部（前頭部、足背、臀部）の母斑もメラノーマ発生のリスク因子であることが分かった。	
	結論	母斑の個数が多いとメラノーマ発生のリスクが高まる。とくに AN が有意な危険因子といえる。	

	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	斉田俊明
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV） 母斑の個数とメラノーマ発生のリスクを皮膚科医や疫学の専門家が協力して調査、検討したものであり、信頼できる研究といえる。英国白人が主たる対象であるので、結論がそのまま日本人に当てはまるかは吟味を要する。

形　式：皮膚がん：MM-CQ2-3

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Clinically recognized dysplastic nevi: A central risk factor for cutaneous melanoma	
	論文の日本語タイトル	臨床的に認識される異形成母斑：皮膚メラノーマの中心的危険因子	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MM-CQ2-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	9145715	
	医中誌 ID		
	雑誌名	JAMA	
	雑誌 ID		
	巻	277	
	号	18	
	ページ	1439-44	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　(2)	
	発行年月	1997 May	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Tucker MA	Genetic Epidemiol Branch, NCI, USA
	その他著者 1	Halpern A	Pigmented Lesion Study Group, Univ. of Pennsylvania, USA
	その他著者 2	Holly EA	Dept. of Epidemiology and Melanoma Clinic, Univ. of California, USA
	その他著者 3	Hartge P	Environmental Epidemiol Branch, NCI, NIH, USA
	その他著者 4	Elder DE	Pigmented Lesion Study Group, Univ. of Pennsylvania, USA
	その他著者 5	Sagebiel RW	Dept. of Epidemiology and Melanoma Clinic, Univ. of California, USA
	その他著者 6	Guerry D 4th	Pigmented Lesion Study Group, Univ. of Pennsylvania, USA
	その他著者 7	Clark WH Jr	Pigmented Lesion Study Group, Univ. of Pennsylvania, USA

一次研究の８項目	目的	母斑の数、タイプと皮膚メラノーマとの関係を検討	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	米国の２大学病院	
	対象者	1991.1.1-1992.12.31 のメラノーマ患者 716 人と対照 1014 人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(2)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(14)	
	介入（要因曝露）	全身の径 2mm 以上の通常型母斑（5mm 以上を大型とする）と異形成母斑(DN)（径 5mm 以上で、かつ多彩な色調、不規則不整な外形、境界不明瞭のうちの２項目を満たす）の調査	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	全身の母斑の数、タイプとメラノーマの相関	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	1) DN が存在しない場合、小型の母斑の個数がメラノーマ発生のリスクとなり、25 個以上で発生リスクが約２倍となった。 2) 大型母斑（５個以上）と小型母斑（50 個以上）がともに多い場合はメラノーマ発生リスクが約４倍となった。 3) １個の DN が存在するとメラノーマ発生リスクが２倍(95%CI:1.4-3.6)になった。 4) DN が 10 個以上になるとメラノーマ発生リスクが 12 倍(4.4-31)となった。	
	結論	通常型母斑もメラノーマ発生のリスクとなるが、DN の方が高いリスクとなる。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	斉田俊明	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV） 白人におけるメラノーマ発生リスクにおけるDNの意義に関する研究	

形　式：皮膚がん：MM-CQ2-4

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Pigmentary traits, modalities of sun reaction, history of sunburns, and melanocytic nevi as risk factors for cutaneous malignant melanoma in Italian population: Results of a collaborative case-control study	
	論文の日本語タイトル	イタリア人における皮膚メラノーマの危険因子としての皮膚色、日光への反応様態、サンバーン歴および色素細胞母斑：共同症例対照研究の結果	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MM-CQ2-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	10870052	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	88	
	号	12	
	ページ	2703-10	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　(2)	
	発行年月	2000 Jun	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Naldi L	Clinica Dermatologica, Universita degli Studi di Milano-Bicocca, Italy
	その他著者 1	Imberti GL	同上
	その他著者 2	Parazzini F	Unita di Epidemiologia analitica, Instituto di Ricerche Farmacologiche M, Italy
	その他著者 3	Gallus S	Laboratorio di Epidemiologia Generale, Instituto di Ricerche Farmacologiche M, Italy

	その他著者 4	La Vecchia C	不明
	その他著者 5	The Oncology Cooperative Group of the Italian Group for Epidemiologic Research in Dermatology	
	その他著者 6		
一次研究の８項目	目的	イタリア人において皮膚色、日光への反応、母斑などがメラノーマ発生の危険因子であるか否かを検討する	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	イタリア全土に及ぶ 27 施設	
	対象者	メラノーマ患者 542 人、対照 538 人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(2)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(22)	
	介入（要因曝露）	質問票への回答と皮膚科医による母斑（径 2mm 以上 6mm 以下と 6mm 超に分ける）の個数の調査	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	毛髪の色、眼の色、皮膚の色、freckle の有無と寡多とメラノーマの関係	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	日光暴露とメラノーマの関係	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	母斑の個数とメラノーマとの関係	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	1) 多変量解析の結果、眼の色、皮膚の色、sunburn をおこしやすい、15 歳以前の sunburn 歴、日光黒子の存在、がメラノーマ発生と有意に相関した。 2) 径 2mm 以上の母斑の個数が多いとメラノーマ発生のリスクが高まった。径 6mm 超の母斑の個数は、メラノーマ発生の独立した危険因子といえた。	

	結論	他の白人におけると同様に、イタリア人においても皮膚の色、日光暴露、母斑の個数がメラノーマ発生の危険因子であることが示された。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	斎田俊明
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV） イタリア人においても、他の白人の場合と同様に、母斑の個数などがメラノーマ発生の危険因子であることを明らかにしたレベルの高い論文。

形　式：皮膚がん：MM-CQ2-5

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Number of acquired melanocytic nevi in patients with melanoma and control subjects in Japan: Nevus count is a significant risk factor for nonacral melanoma but not for acral melanoma	
	論文の日本語タイトル	日本におけるメラノーマ患者と対照群における後天性色素細胞母斑の数：母斑の数は非肢端メラノーマの有意な危険因子だが、肢端メラノーマの危険因子ではない	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MM-CQ2-5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （IV）	
	Pubmed ID	15097952	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acad Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	50	
	号	5	
	ページ	695-700	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　(2)	
	発行年月	2004 May	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Rokuhara S	Dept. of Dermatology, Shinshu University School of Medicine, Japan
	その他著者 1	Saida T	同上
	その他著者 2	Oguchi M	同上
	その他著者 3	Matsumoto K	同上
	その他著者 4	Murase S	Dept. of Medical Informatics, Shinshu University School of Medicine, Japan
	その他著者 5	Oguchi S	Division of Dermatology, Saku Central Hospital, Japan
	その他著者 6		

一次研究の 8 項目	目的	日本人のメラノーマ患者と一般人について、全身の母斑の個数と大きさ、分布を調査し、メラノーマ発生との関係を検討する。	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	大学病院	
	対象者	日本人のメラノーマ患者 82 人（肢端メラノーマ 50 人、非肢端メラノーマ 25 人など）と対照 600 人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(1)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(9)	
	介入（要因曝露）	皮膚科医による全身（外陰部、頭部を除く）の母斑の検索	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	日本人一人当たりの母斑の個数とその年齢による変化	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	2	母斑の個数をメラノーマ患者と一般人について比較	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	3	メラノーマの病型（部位）と母斑との関係	1.主要 2.副次 3.その他（2）
	主な結果	1）日本人において母斑は 0 歳から 19 歳にかけて増加し、20~39 歳の年齢層で最多となり（一人当たり 6.7 個）、その後徐々に減少した。 2）非肢端メラノーマ患者（粘膜メラノーマを除く）は 40~79 歳の年齢層で対照よりも有意に多い母斑を有した。 3）肢端メラノーマ患者と対照群との間には全身の母斑の数に有意差がなかった。	
	結論	日本人においても母斑の個数は、非肢端メラノーマ発生の危険因子といえる。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	斎田俊明	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV） 日本人における母斑の疫学的実態とメラノーマとの関係についての初めての本格的調査である。症例対照研究の形をとっており レベル IVとした。	

形　式：皮膚がん：MM-CQ3-1

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Classification of congenital melanocytic naevi and malignant transformation: A review of the literature	
	論文の日本語タイトル	先天性色素細胞母斑の分類と悪性形質転換：文献のレビュー	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称		
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （Ⅰ）	
	Pubmed ID	15544766	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Plast Surg	
	雑誌 ID		
	巻	57	
	号	8	
	ページ	707-19	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　(2)	
	発行年月	2004 Dec	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Zaal LH	Dept. of Plast. Reconstr and Hand Surg, Isala Klinieken, Netherland
	その他著者 1	Mooi WJ	Dept. of Pathology, Netherland Cancer Institute, Netherland
	その他著者 2	Sillevis Smitt JH	Dept. of Dermatol, Academic Medical Center, Netherland
	その他著者 3	van der Horst CM	Dept. of Plat. Reconstr and Hand Surg, Academic Medical Center, Netherland
	その他著者 4		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	先天性母斑の大きさによる分類と悪性化に関する文献的検討
	データソース	MEDLINE にて 1966-2002 年の先天性母斑に関する文献を検索
	研究の選択	メラノーマとの関係、母斑サイズ分類の明記などを基準に文献を選択
	データ抽出	不明
	主な結果	1) 巨大型先天性母斑の定義としては、少なくとも7つの提案がなされていた。 2) 小型の先天性母斑か後天性母斑かの組織学的区別は困難であった。 3) 巨大型先天性母斑はメラノーマを生じるリスクが高いが、その率は1%から31%まで、報告によって大きな開きがあった。
	結論	1) 巨大型母斑の定義を統一しておかないと、評価に混乱が生じる。著者らは、頭頂部では体表面積の1%、その他の部位では2%以上のものを巨大型としたい。(その人の手の大きさがおよそ体表の1%に相当する) 2) 先天性母斑は可能な限り予防的に切除すべきだと考える。
	備考	
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	斎田俊明
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅰ） MEDLINE で関連文献を検索した論文であり厳密なものではないが、システマティックレビューの範疇に入ると考える。

形　式：皮膚がん：MM-CQ3-2

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Risk of melanoma arising in large congenital melanocytic nevi: A systematic review	
	論文の日本語タイトル	大型先天性色素細胞母斑に生じるメラノーマのリスク：システマティック・レビュー	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称		
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （Ⅰ）	
	Pubmed ID	15253185	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Plast Reconstr Surg	
	雑誌 ID		
	巻	113	
	号	7	
	ページ	1968-74	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　(2)	
	発行年月	2004 Jun	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Watt AJ	University of Michigan School of Medicine and Section of Plastic Surgery, Dept. of Surgery, USA
	その他著者 1	Kotsis SV	同上
	その他著者 2	Chung KC	同上
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	大型先天性母斑におけるメラノーマ発生のリスクをシステマティックレビューにて検討する
	データソース	PRE-MEDLINE と MEDLINE
	研究の選択	1966~2002 年の文献を渉猟。大型母斑の定義として、体表面積の2%以上あるいは最大径 20cm 以上の母斑病巣とした。
	データ抽出	2名の研究者が独立に文献からデータを抽出した。互いのデータを比較して、結果に差異があったら、話し合いによって合意した。
	主な結果	1) 8文献が検出され、432 症例が解析対象となった。 2)平均経過観察期間 6.2 年で、12 例（2.8%）に皮膚のメラノーマが生じた。不明の2例を除き、メラノーマは母斑病巣部に生じた。 3) 一般人に比べ、大型先天性母斑の患者がメラノーマを生じる危険性は有意に高く、standardized morbidity ratio は 2599(95%CI: 844-6064)となった。 4) メラノーマを生じた 12 例への事前の処置は、無治療が 50%、部分切除 17%、dermabrasion8.3%、ケミカルピーリング 8.3%、不明 17%であった。
	結論	大型先天性母斑の患者はメラノーマを発生するリスクが有意に高い。
	備考	
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	斎田俊明」
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅰ） きちんとした解析手法によるデータである。ただし、皮膚以外のメラノーマや neurocutaneous melanocytosis の合併は対象としていない。表の注記から、皮膚のメラノーマ以外に、leptomeningeal melanona 1 例、その他の皮膚以外のメラノーマ 1 例、neuroblastoma 1 例、neurocutaneous melanocytosis 5 例、原発不明転移での死亡 3 例があったことが分かる。

形　式：皮膚がん：MM-CQ3-3

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Association of melanoma and neurocutaneous melanocytosis with large congenital melanocytic naevi: Results from the NYU-LCMN registry	
	論文の日本語タイトル	メラノーマおよび皮膚神経メラノサイトーシスと大型先天性色素細胞母斑との関係：NYU-LCMN 登録からの結果	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称		
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	15787820	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	152	
	号	3	
	ページ	512-7	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　(2)	
	発行年月	2005 Mar	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Hale EK	Oncology Section, Skin and Cancer Unit, New York University Medical Center, USA
	その他著者 1	Stein J	同上
	その他著者 2	Ben-Porat L	Dept. of Mathematics, Statistics and Epidemiology, Imperial Cancer Research Fund
	その他著者 3	Panageas KS	Dept. of Epidemiology and Biostatics, Memorial Sloan-Kettering Cancer Center, USA
	その他著者 4	Eichenbaum MS	Oncology Section, Skin and Cancer Unit, New York University Medical Center, USA
	その他著者 5	Marghoob AA	Dept. of Epidemiology and Biostatics, Memorial Sloan-Kettering Cancer Center, USA
	その他著者 6	Osman I	Oncology Section, Skin and Cancer Unit, New York University Medical Center, USA
	その他著者 7	Kopf AW	同上
	その他著者 8	Polsky D	同上
	その他著者 9		
	その他著者 10		
一次研究の８項目	目的	大型先天性母斑に生じるメラノーマと neurocutaneous melanocytosis(NCM)の発生リスクと臨床的特徴の検討	
	研究デザイン	1施設における大型先天性母斑患者を対象とするコホート研究	
	セッティング	大学病院の専門外来	
	対象者	同外来に登録された 205 人の患者。うち、170 人は前向きに追跡された。	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(2)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(2)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(22)	
	介入（要因曝露）	NCM や衛星母斑病巣の存在、母斑のサイズ	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑﾚ）	エンドポイント	区分
	1	メラノーマと NCM の出現率	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	2	メラノーマと NCM の出現に関与する因子の解析	1.主要 2.副次 3.その他（2）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）

	主な結果	1) 前向きに追跡した 170 人の患者のうち４人にメラノーマが生じた。Standard morbidity ratio は 324(95%CI:140-919)となった。 2) メラノーマ発生と有意に関係する因子として、多数の衛星母斑病巣、NCM の存在が挙げられた。 3) メラノーマや NCM を生じた者の母斑の大きさは、生じなかった者のそれに比べ、有意に大きかった。 4)本登録にエントリーされた 205 人の平均年齢は 1.2 歳、登録からの追跡期間の中央値は４年であった。うち 10 人にメラノーマが生じ、その半数は２歳までに生じた。 5) NCM は 17 人に生じた、うち 15 人では４歳までに生じた。多数の衛星母斑病巣の存在が NCM 発生と有意な相関を示す傾向がみられた。母斑のサイズも大きい傾向がみられた。
	結論	大型先天性母斑患者において多数の衛星母斑病巣の存在と病巣の大きさがメラノーマと NCM 発症に有意に相関する。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	斎田俊明
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV） 大型先天性母斑患者の中心的センターであるニューヨーク大学皮膚科における多数例についての解析である。白人患者が主体と考えられるので、日本人にそのまま当てはまるか、検討が必要。

形　式：皮膚がん：MM-CQ3-4

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Risk of malignant transformation of congenital melanocytic nevi: A retrospective nationwide study from The Netherland	
	論文の日本語タイトル	先天性色素細胞母斑の悪性形質転換のリスク：オランダにおける後ろ向き全国的調査	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称		
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	16327602	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Plast Reconstr Surg	
	雑誌 ID		
	巻	116	
	号	7	
	ページ	1902-9	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　(2)	
	発行年月	2005 Dec	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Zaal LH	Dept. of Plast. Reconstr and Hand Surg, Isala Klinieken, Netherland
	その他著者 1	Mooi WJ	Dept. of Pathology, Free Univ. Medical Center, Netherland
	その他著者 2	Klip H	Dept. of Plat. Reconstr and Hand Surg, Academic Medical Center, Netherland
	その他著者 3	van der Horst CMAM	Dept. of Plat. Reconstr and Hand Surg, Academic Medical Center, Netherland
	その他著者 4		

一次研究の 8 項目			
	目的	オランダにおける先天性母斑の悪性化率を検討する	
	研究デザイン	オランダ全国データベースにおける先天性母斑症例、および 1989-2000 年に診断されたメラノーマ発生症例の後ろ向きコホート研究	
	セッティング	全国データベース	
	対象者	登録されていた 3929 人の患者	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(2)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(22)	
	介入（要因曝露）	全国的データベースに基づく調査	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	先天性母斑におけるメラノーマ発生のリスク	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	大型の先天性母斑におけるメラノーマ発生リスク	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	1）平均追跡期間 4.7 年において、先天性母斑 19,253person-years につきメラノーマが 15 症例認められた。対照の期待値は 1.23 症例であり、overall standardized incidence rate は 12.2(95%CI:9.6-15.3)となった。 2）巨大型（20cm 以上、あるいは頭頸部で体表 1%以上、それ以外で 2%以上）母斑の患者での standardized incidence rate は 51.6(38.3-68.1)となり、一般人に比べて 51.6%高いメラノーマの発生リスクが示された。	
	結論	先天性母斑は一般対照人に比べて有意に高いメラノーマ発生リスクを有することが示された。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	斎田俊明
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV） 整備された登録制度のあるオランダからのデータで、信頼できる。

形　式：皮膚がん：MM-C03-5

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Large congenital melanocytic nevi, risk of cutaneous melanoma, and prophylactic surgery	
	論文の日本語タイトル	大型先天性色素細胞母斑、皮膚メラノーマ発生リスク、ならびに予防的外科的切除	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称		
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (I)	
	Pubmed ID	00000000	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acad Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	54	
	号	5	
	ページ	868-870	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　(2)	
	発行年月	2006 May	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Marghoob AA	Dermatology Service, Dept. of Med, Memorial Sloan-Kettering Cancer Center
	その他著者 1	Agero ALC	同上
	その他著者 2	Benvenuto-Andrade C-	同上
	その他著者 3	Dusza SW	同上
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		

レビュー研究の 6 項目	目的	大型先天性色素細胞母斑(LCMN)におけるメラノーマ発生リスクを文献的に検索し、予防的切除の意義について考察する
	データソース	これまでに報告された後ろ向き症例解析のうち、患者数の多いもの4件を取り上げた。計 954 例の LCMN 患者が対象となった。
	研究の選択	手術しないで経過観察した群と部分的あるいは完全切除を行った群におけるメラノーマ発生率を比較検討
	データ抽出	著者の文献検索。
	主な結果	1) Bett が 2005 年に J Am Acad Dermatol 誌に LCMN がメラノーマを生じるリスクは低いから、その予防的切除は有用でない、と報告したが、この結論には意義がある。彼女の論文では LCMN の 2.9% にメラノーマが生じていた。40 歳以下の米国白人のメラノーマ発生リスクは 0.6%であるので、5倍のリスクがあるといえる。 2) 上記基準で集積した 954 例の LCMN については、切除なしで経過観察した 304 例中 23 例(7.5%)にメラノーマが生じ、部分的あるいは完全切除した 650 例では 4 例(0.6%)にメラノーマが生じた。Bett の症例でもメラノーマ発生は経過観察群 13/132、切除群 3/497 と、前者で有意に多かった。
	結論	LCMN の外科的切除はメラノーマ発生の予防に効果があるといえる。全身麻酔のリスクを考慮しても、幼児期の切除が勧められる。ただし、完全切除は難しいことが多いから、切除してもリスクは残る可能性はある。ただし、LCMN でもメラノーマを生じない症例も多いことも考慮し、最終的には患者・家族の考え方に従うことになる。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	斎田俊明
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅰ） 大型の先天性色素細胞母斑がメラノーマを生じるリスクを慎重に評価たうえで、高リスクではないが、通常人よりはリスクが高いことは確かだから、予防的に可能な限り切除するという選択肢を考慮すべきだと主張している。

形　式：皮膚がん：MM-C04-1

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Is dermoscopy useful for the diagnosis of melanoma?：Results of a meta-analysis using techniques adapted to the evaluation of diagnostic tests	
	論文の日本語タイトル	ダーモスコピーはメラノーマの診断に有用か？　診断試験の評価へ適合した手法を用いたメタアナリシスの結果	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称		
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (I)	
	Pubmed ID	11594860	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	137	
	号	10	
	ページ	1343-50	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　(2)	
	発行年月	2001 Oct	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Bafounta ML	Service de Dermatologie, Hopital Ambroise Pare, France
	その他著者 1	Beauchet A	Antenne d'Informatique Medicale, Hopital Ambroise Pare, France
	その他著者 2	Aegerter P	同上
	その他著者 3	Saiag P	Service de Dermatologie, Hopital Ambroise Pare, France
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		

レビュー研究の 6 項目	目的	メラノーマ診断における肉眼所見での診断とダーモスコピー（熟練者）による診断の正確度の比較のメタアナリシス
	データソース	2000年3月までの関連文献をMEDLINEやEMBASEなどで渉猟、収集
	研究の選択	対象疾患の明記、最終診断が組織診断、感度と特異度の計算が可能、という条件を満たす研究を選択。672 文献中 8 文献がこの条件を満たした。
	データ抽出	3人の研究者がデータを抽出し、不一致のものは話し合いで合意を えた。
	主な結果	1) 全体としてメラノーマ 328 病巣（多くは tumor thickness が 0.76mm 以下の早期病変）と良性病変 1865 病巣（メラノサイト系病変が主体）が対象となった。ダーモスコピーによるメラノーマ診断の感度は 0.75~0.96、特異度は 0.79~0.98 に分布した。 2) ダーモスコピーは肉眼所見による臨床診断よりも有意に高い検出力を示した。その推定オッズ比(estimated odds ratio)は 76(95%CI:25-223)対 16(9-31)であった(P=0.008)。また、推定陽性尤度比(estimated positive likelihood ratio)は 9(5.6-19)対 3.7(2.8-5.3)であった。
	結論	ダーモスコピーは、熟練者が用いれば、肉眼所見のみよりもメラノーマの診断精度を有意に向上させる。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	斎田俊明
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅰ） メラノーマの診断におけるダーモスコピーの有用性をメタアナリシスにて検討した信頼できる論文である。

形　式：皮膚がん：MM-CQ4-2

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Diagnostic accuracy of dermoscopy	
	論文の日本語タイトル	ダーモスコピーの診断学的正確性	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称		
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ. 非ランダム化比較試験による Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （Ⅰ）	
	Pubmed ID	11902502	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Lancet Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	3	
	号	3	
	ページ	159-65	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　(2)	
	発行年月	2002 Mar	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Kittler H	Dept. of Dermatology, University of Vienna Medical School, Austria
	その他著者 1	Pehamberger H	同上
	その他著者 2	Wolff K	同上
	その他著者 3	Binder M	同上
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	メラノーマ診断におけるダーモスコピーの有用性を文献的に検討する	
	データソース	1987~2000 年に出版された文献を MEDLINE などで検索。	
	研究の選択	収集した 157 文献のうちオリジナルデータの記載がないものなどを除外し、適合する 27 研究を選択した。オリジナルデータの記載がないもの、メラノーマ診断と無関係のものなどを除外。	
	データ抽出	不明	
	主な結果	1) 全対象病巣数は 9821 であり、その内でメラノーマが占める率は 1.6%~60.8%に分布した。メラノーマの tumor thickness の平均は 0.70mm(0.40~1.11)であった。 2) ダーモスコピー併用の有無による診断精度の比較は、それを直接記載してある 13 文献を検討すると、ダーモスコピーを用いた方が有意に精度が高まることが示された。平均ログオッズ比がダーモスコピー有りで 4.0(95%CI: 3.0-5.1)、ダーモスコピー無しで 2.7(1.9-3.4)（P=0.001)。 3) 診断手法の比較などを行った文献も含めた全 27 文献からの検討でも、ダーモスコピーを用いた方が診断精度が有意に高いことが示された（mean log odds ratio: 3.4 対 2.5)。ダーモスコピーの初心者よりも熟練者の方が有意に診断精度が高いことも示された（平均ログオッズ比: 3.8 対 2.0)（P=0.001)。 4) 初心者ではダーモスコピーを用いても有意差が出ない（mean log odds ratio: 2.5 対 2.0)。	
	結論	ダーモスコピーは、習熟した者が用いれば、メラノーマ診断の精度を有意に向上させる。	
	備考		
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	ﾚﾋﾞｭｰﾜｰ氏名	斎田俊明	
	ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	エビデンスのレベル分類（Ⅰ） ダーモスコピーのメラノーマ診断における意義がメタアナリシスによって確認された（初心者は除く)。	

形　式：皮膚がん：MM-CQ4-3

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	A beneficial effect of a short-term formal training course in epiluminescence microscopy on the diagnostic performance of dermatologists about cutaneous malignant melanoma	
	論文の日本語タイトル	短期間の正規のダーモスコピー講習会が皮膚科医のメラノーマ診断能へ及ぼす有益な効果	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称		
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （Ⅲ）	
	Pubmed ID	12877690	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Skin Res Technol	
	雑誌 ID		
	巻	9	
	号	3	
	ページ	269-73	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　(2)	
	発行年月	2003 Aug	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Troyanova P	Dept. of Dermatol, National Oncological Center, Sofia, Bulgaria
	その他著者 1		
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		

一次研究の 8 項目	目的	ダーモスコピーの短時間の正規の講習会を受けることによって皮膚科医のメラノーマ診断の精度が向上するか	
	研究デザイン	非ランダム化比較試験	
	セッティング	講習会で数百枚のダーモスコピー画像をみせて解説する	
	対象者	色素性皮膚病変の診断に経験のある皮膚科医 32 人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(2)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(22)	
	介入（要因曝露）	1日6時間、2日間のダーモスコピー講習の前後に 50 症例（25 症例が比較的早期のメラノーマ、残りの 25 症例が非メラノーマ）の臨床写真ならびにダーモスコピー画像をみせて、メラノーマか非メラノーマかを回答させる	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	講習会前後のメラノーマ診断の感度、特異度などを比較	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	1) 講習会前には、メラノーマの臨床診断とダーモスコピー診断の間に、感度、特異度、正確度などに有意差はみられなかったが、講習会後にはダーモスコピー診断が臨床診断よりも感度（71.56%→89.69%)、正確度(59.48%→77.74%)において有意に向上した。 2) 講習会の前後で比較すると、ダーモスコピー診断自体も感度（75.31%→89.69%)、正確度(62.92%→77.74%)が向上した。	
	結論	短期間の正規のダーモスコピー講習会を受けることによって皮膚科医のメラノーマ診断能力は向上する。	
	備考		
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	ﾚﾋﾞｭｰﾜｰ氏名	斎田俊明	
	ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	エビデンスのレベル分類（Ⅲ） 皮膚科医がダーモスコピーでメラノーマの診断能を向上させるには、ダーモスコピーについて正規の訓練を受ける必要があることを示した論文。	

形　式：皮膚がん：MM-C04-4

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Addition of dermoscopy to conventional naked-eye examination in melanoma screening: A randomized study	
	論文の日本語タイトル	メラノーマのスクリーニングにおける通常の肉眼的観察へのダーモスコピー検査の追加：ランダム化比較試験	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称		
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（Ⅱ）	
	Pubmed ID	15097950	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acad Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	50	
	号	5	
	ページ	683-9	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　(2)	
	発行年月	2004 May	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Carli P	Dept. of Dermatology, University of Florence, Italy
	その他著者 1	De Giorgi V	同上
	その他著者 2	Chiarugi A	同上
	その他著者 3	Nardini P	同上
	その他著者 4	Weinstock MA	Dermoepidemiology Unit, Brown University, Providencde, USA
	その他著者 5	Crocetti E	Clinical and Descriptive Epidemiology Unit, Center for Oncologic Prevention, Florence, Italy
	その他著者 6	Stante M	Dept. of Dermatology, University of Florence, Italy
	その他著者 7	Giannotti B	同上
	その他著者 8		

一次研究の８項目	目的	肉眼的な臨床診断にダーモスコピーを併用するとメラノーマをスクリーニングするうえで意義があるかを検討し、さらに、診断の難しい病巣のダーモスコピーによる digital follow-up が患者の取り扱いに及ぼす影響を検討する。	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	大学病院の色素性病変外来	
	対象者	2001 年 11 月から 2002 年３月までに受診した患者 913 人（12 歳以下の 25 人を除く）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(2)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(14)	
	介入（要因曝露）	受診した患者をランダム化し、肉眼所見とダーモスコピー所見を合わせて診断困難な病変を生検する群（B 群）、医師の判断によりダーモスコピーで digital follow-up する選択肢を設ける群（C 群）、ならびに肉眼所見のみで診断困難な病変を生検する群(A 群）に割り付け。	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	ダーモスコピーの併用で無駄な生検が減るか	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	2	digital follow-up に意義があるか	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	1）ダーモスコピーを併用すると、肉眼所見のみの場合に比べ、生検される病巣が有意に減少した（9.0%対 15.6%; P=0.013）。 2) digital follow-up 群では診断困難と判定されるものが増加した。そのうち約半数は直ぐに生検され、残りが digital-follow-up となった。この群では６カ月後の２回目のダーモスコピー検査でメラノーマが２病巣検出された（in situ が１病巣、0.4mm の厚さが１病巣）。 3）３群間で最終的に切除されたメラノーマ病巣の数はほぼ同数であった（各３、２、３病巣）。	

	結論	ダーモスコピーを加えると、肉眼所見のみの場合に比べ、診断確認のために生検する病巣の数が有意に減少する。digital follow-up の選択肢があると、２回目のダーモスコピー検査まで切除されないメラノーマの数が増加する可能性がある。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	斎田俊明
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅱ） 専門外来でのメラノーマのスクリーニングにおけるダーモスコピーの意義をランダム化試験で明らかにした研究。

形　式：皮膚がん：MM-CQ4-5

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Results from an observational trial: Digital epiluminescence microscopy follow-up of atypical nevi increases the sensitivity and the chance of success of conventional dermoscopy in detecting melanoma	
	論文の日本語タイトル	観察的試験の結果：異型母斑のデジタルダーモスコピーによる経過追跡はメラノーマを検出するうえでダーモスコピーの感度と成功率を向上させる	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称		
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （Ⅲ）	
	Pubmed ID	16514414	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Invest Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	126	
	号	5	
	ページ	980-5	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　(2)	
	発行年月	2006 May	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Haenssle HA	Dept. of Derm, Goettingen, Germany
	その他著者 1	Krueger U	同上
	その他著者 2	Vente C	同上
	その他著者 3	Thomas KM	同上
	その他著者 4	Bertsch HP	同上
	その他著者 5	Zutt M	同上
	その他著者 6	Rosenberger A	Dept. of Genetic Epidemiol, Goettingen, Germany
	その他著者 7	Neumann C	Dept. of Derm, Goettingen, Germany
	その他著者 8	Emmert S	同上

一次研究の 8 項目	目的	異型母斑(AN)の長期経過観察におけるデジタルダーモスコピーの意義を検討する	
	研究デザイン	非ランダム化比較試験。	
	セッティング	大学病院外来	
	対象者	530 人の患者（第 1 群 353 人：50 個以上の母斑と 3 個以下の AN、第 2 群 171 人：過去に組織学的に確定された AN を 3 個以上を有する AMS 患者、第 3 群 6 人：メラノーマの家族歴のある FAMMM 症候群患者）にみられた 7001 個の AN を、定期的（3, 6, 12 カ月毎）に経過観察。平均観察期間 32.2 カ月。	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(2)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(22)	
	介入（要因曝露）	メラノーマ発生リスクの高い患者の母斑をデジタルダーモスコピーで定期的に経過観察し、病変に変化（病変の非対称性拡大、形状・色調の変化、退縮像の出現、ダーモスコピー構造の変化のいずれか）がみられたら切除して、組織学的に検討する。	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	デジタルダーモスコピーがメラノーマの早期検出に役立つか	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	1) 初診時に 237 個の病変が切除され、うち 37 病変がメラノーマであった。その 30 病巣はダーモスコピー所見でメラノーマを疑われたものである。 2) 経過観察中に 637 個の病変が生検され、うち 53 病変（25 病巣は thin invasive、28 病巣は in situ）がメラノーマであった（メラノーマ検出の成功率：8.3%）。13 病巣のメラノーマは経過中に新生した病巣であった。18 病巣はデジタルダーモスコピーのみによって疑われて生検されたものであり、通常のダーマスコピーより感度が上昇した。	

	結論	ハイリスク患者の病変の経過観察にデジタルダーモスコピーを用いるとメラノーマの早期検出に役立つ。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	斎田俊明
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅲ） メラノーマリスクの高い母斑多発患者におけるメラノーマの早期検出にデジタルダーモスコピーによる経過観察が役立つ。

形　式：皮膚がん：MM-CQ4-6

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Significance of dermoscopic patterns in detecting malignant melanoma on acral volar skin: Results of a multicenter study in Japan	
	論文の日本語タイトル	肢端無毛部皮膚のメラノーマの検出におけるダーモスコピーパターンの意義：日本における多施設共同研究の結果	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称		
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	15492186	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	140	
	号	10	
	ページ	1233-8	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　(2)	
	発行年月	2004 Oct	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Saida T	Dept. of Dermatol, Shinshu Univ. School of Med., Japan
	その他著者 1	Miyazaki A	同上
	その他著者 2	Oguchi S	同上
	その他著者 3	Ishihara Y	同上
	その他著者 4	Yamazaki Y	同上
	その他著者 5	Murase S	Dept. of Medical Informatics, Shinshu University School of Medicine, Japan
	その他著者 6	Yoshikawa S	Dept. of Dermatol, Saitama Medical School, Japan
	その他著者 7	Tsuchida T	同上
	その他著者 8	Kawabata Y	Dept. of Dermatol, Faculty of Medicine, University of Tokyo, Japan
	その他著者 9	Tamaki K	同上

一次研究の 8 項目	目的	掌蹠のメラノサイト系病変でみられる定型的なダーモスコピーパターンの診断学的意義を検討	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	大学病院	
	対象者	3大学で2000年までにダーモスコピー検査が行われた掌蹠のメラノーマ103病巣（うち36病巣は in situ 病変）と色素細胞母斑609病巣（後天性453病巣、先天性156病巣）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(1)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(22)	
	介入（要因曝露）	ダーモスコピー検査	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	掌蹠のメラノーマの特徴的ダーモスコピー所見とされる parallel ridge pattern と irregular diffuse pigmentation のメラノーマ診断における感度、特異度などの検討	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	掌蹠の母斑の特徴的ダーモスコピー所見とされる parallel furrow pattern や lattice-like pattern などの母斑診断における感度、特異度などの検討	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）

	主な結果	1) parallel ridge pattern が掌蹠のメラノーマを検出する感度は86%、特異度は99%、陽性期待値93.7%、陰性期待値97.7%、診断精度81.7%であった。Melanoma in situ の段階でも感度86%、特異度99%であった。 2) irrgular diffuse pigmentation が掌蹠のメラノーマを検出する感度は 85.4%、特異度は 96.6%、陽性期待値 80.7%、陰性期待値97.5%、 診断精度71%であった。Melanoma in situ では感度69.4%、特異度96.6%であった。 3) parallel furrow pattern または lattice-like pattern が母斑を検出する感度は67.2%、特異度93.2%、陽性期待値98.3であった。
	結論	ダーモスコピーは掌蹠のメラノーマと母斑の診断にきわめて有用であり、とくに parallel ridge pattern は掌蹠メラノーマの早期検出に役立つ。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	斎田俊明
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV） 掌蹠のメラノサイト系病変の診断におけるダーモスコピーの有用性を多施設の多数の病変によって証明した研究。

形　式：皮膚がん MM-CQ5-1

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Serological markers for melanoma	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MM-CQ5-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅰ ）	
	Pubmed ID	10951131	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	143	
	号	2	
	ページ	256-68	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語　2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	2000 年 2 月	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Brochez L	Gent 大学皮膚科
	その他著者 1	Naeyaert JM.	同上
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	メラノーマの血清腫瘍マーカーの文献的レヴュー
	データソース	1981 年～1991 年の Medline 検索
	研究の選択	記載なし
	データ抽出	記載なし
	主な結果	各種のサイトカインおよびその受容体、細胞接着分子，S100 蛋白 melanoma inhibitory activity(MIA), neurone-specific enolase (NSE)，メラニン代謝産物、脂肪結合シアル酸、組織特異的 RT-PCR 反応などがメラノーマの血清腫瘍マーカーとして報告されている。しかし、これらは一般に進行期の患者血清でのみ異常値を示す。また、進行期例における陽性率も 100%ではなく、病期分類にも用いることはできない。ただし、いくつかのマーカーは予後因子となる可能性がある。
	結論	現在知られているメラノーマの血清腫瘍マーカーの臨床的有用性は限られているが、いくつかのマーカーは予後の予測や患者の層別化に役立つ可能性があり、さらなる検討が必要である。
	備考	文献整理番号：メラノーマ　Q6　文献番号 1
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	高田　実
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（I） 2000 年の時点ではあるが、メラノーマの血清腫瘍マーカーについて網羅された優れた総説。厳密なものではないが、MEDLINE 検索しておりシステマティックレビューに準ずるものと考えた。本レビューにおいて腫瘍マーカーの意義は肯定されていない。

形　式：皮膚がん MM-CQ5-2

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ	医学情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Highly sensitive detection of melanoma at an early stage based on the increased serum secreted protein acidic and rich in cysteine and glypican-3 levels.	
	論文の日本語タイトル	MM-CQ5-2	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	CQ6　文献 2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	16299239	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Clin Cancer Res	
	雑誌 ID		
	巻	11	
	号	22	
	ページ	8079-88	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	2005 年 11 月	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Ikuta Y	熊本大学
	その他著者 1	Nakatsura T	熊本大学
	その他著者 2	Kageshita T	熊本大学
	その他著者 3	Fukushima S	熊本大学
	その他著者 4	Baba, H	熊本大学
	その他著者 5	Nishimura, Y	熊本大学
	その他著者 6	Ito S	藤田保健衛生大学
	その他著者 7	Wakamatsu K	藤田保健衛生大学
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	早期メラノーマの診断に役立つ腫瘍マーカーを明らかにする	
	研究デザイン	横断研究	
	セッティング	熊本大学病院	
	対象者	メラノーマ、巨大先天性母斑、健常人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 1 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 22 ）	
	介入（要因曝露）	血清 SPARK, GPC3, 5-S-CD 値	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｺｰﾑ）	エンドポイント	区分
	1	メラノーマの病期	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	血清の可溶性 SPARK 値はメラノーマ患者 109 例中 36 例(33%)で、正常人対照の平均値+2SD を超える異常高値を示し、そのうち 19 例は Stage 0～Ⅱの早期例であった。血清 GPC3 値とあわせると Stage 0～Ⅱの早期例 75 例中 47 例（66.2%）で、いずれかの異常高値が認められた。	
	結論	GPC3 と GPC3 は早期メラノーマの診断に役立つ血清腫瘍マーカーであり、両者の併用により約 2/3 の早期メラノーマ症例で血清診断が可能である。	
	備考		
	レビューワー氏名	高田　実	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ） 興味深い研究成績であるが、早期メラノーマの多くは臨床所見や病理組織所見で容易に診断されるので、その臨床的有用性は疑問。 メラノーマとの鑑別が難しい Spitz 母斑のデータがあれば、診断問題例の補助診断法として用いられるかもしれない。	

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Malignant melanoma in 20-MHz　B scan sonography.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ6-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	1638071	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Dermatology	
	雑誌 ID	9203244	
	巻	185	
	号		
	ページ	49-55	
	ISSN ナンバー	p 1018-8665, e 1421-9832	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1992	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Hoffmann　K	Dermatological Department of the Ruhr University Bochum, St. Josef's Hospital, Bochem, FRG
	その他著者 1	Jung J	
	その他著者 2	el Gammal　S	
	その他著者 3	Altmeyer P	
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の８項目	目的	20MHz 高周波エコーを用いて悪性黒色腫原発巣の評価を行う。	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	悪性黒色腫での受診患者	
	対象者	54 人の悪性黒色腫患者	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 2 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 14 ）	
	介入（要因曝露）	悪性黒色腫原発巣を術前に高周波エコーにより tumor thickness を測定し，切除後に得られた組織学的な tumor thickness と比較する	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	悪性黒色腫原発巣は，高周波エコーでは多くは低エコー領域として描出される。 測定された tumor thickness と標本上の tumor　thickness との間の相関は r=0.983,p<0.001 であった。 腫瘍下の炎症細胞浸潤や低エコーを示す構造があることで誤差が生じた。	
	結論	高周波エコー単独では確定診断は難しいが，手術計画において付加的な情報を得ることができる。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	林　宏一
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅳ） 症例集積研究あるいは記述的研究ともとれるが、臨床上極めて重要な 2 変数の相関を分析しており、症例対照研究に準ずるものと考えた。

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Prognostic value of angiogenesis evaluated with high-frequency and colour Doppler sonography for preoperative assessment of primary cutaneous melanomas: correlation with recurrence after a five year follow-up period.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ6-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅳ　）	
	Pubmed ID	16644502	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Cancer Imaging	
	雑誌 ID	101172931	
	巻	6	
	号		
	ページ	24-29	
	ISSN ナンバー	p 1740-5025　e 1470-7330	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2　）	
	発行年月	2006	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Lassau N	Department of Medical Imaging,Institut Gustave Roussy, Villejuif, France
	その他著者 1	Lamuraglia M	
	その他著者 2	Koscielny S	
	その他著者 3	Spatz A	
	その他著者 4	Roche A	
	その他著者 5	Leclere A	
	その他著者 6	Avril MF	
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の８項目	目的	悪性黒色腫原発巣における術前評価として高周波，カラードップラーエコーを用い，血管新生と予後に関して５年間の再発例の検討を行う。	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	悪性黒色腫での受診患者	
	対象者	111 名の悪性黒色腫患者	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（　2　）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（　3　）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（　１４　）	
	介入（要因曝露）	悪性黒色腫原発巣を術前に高周波エコーによりtumor thicknessを測定し，切除後の組織学的な tumor thickness と比較した。またカラードップラーエコーを用い血管新生を測定した。	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	再発	1. 主 要　2. 副 次　3. そ の 他（　1　）
	2	血管新生	1. 主 要　2. 副 次　3. そ の 他（　2　）
	3	tumor thickness	1.主要 2.副次 3.その他（　2　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	悪性黒色腫原発巣を高周波エコーで測定した tumor thickness と Breslow's tumor thickness に強い相関がみられた（r>0.93）。カラードップラーエコーでは１０７例中４３例に腫瘍内に血管新生がみられ，そのうち４０例は tumor thickness が 2mm 以上であった。中央値６１ヶ月の観察期間で２７例に再発がみられた。エコーでみられる血管新生と tumor thickness は再発と強い関連があった。	

	結論	血管新生は主に厚い黒色腫においてみられた。 ５年間のフォローアップでは血管新生が予後に関係していることが分かった。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	林　宏一
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV）

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚腫瘍	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Influence of skin tention and formalin fixation on sonographic measurement of tumor thickness	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での日次名称	MMCQ6-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅴ ）	
	Pubmed ID	8543692	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J　Am Acad Dermatol	
	雑誌 ID	7907132	
	巻	34	
	号		
	ページ	34-39	
	ISSN ナンバー	p 0190-9622　e 1097-6787	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1996	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Salmhofer W	Department of Dermatology, University of Graz, Graz, Austria
	その他著者 1	Rieger E	
	その他著者 2	Soyer P	
	その他著者 3	Smolle J	
	その他著者 4	Kerl H	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の８項目			
	目的	皮膚腫瘍の切除前，切除直後，固定後の tumor thickness の変化を高周波エコーを用いて評価し，標本から得られた組織学的な tumor thickness と比較する。	
	研究デザイン	横断研究	
	セッティング	大学病院	
	対象者	４７人の皮膚腫瘍患者	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 2 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ １２ ）	
	介入（要因曝露）	皮膚腫瘍の切除前，切除直後，ホルマリン固定後の tumor thickness を高周波エコーを用いて測定し，標本から得られた組織学的な tumor thickness と比較する。	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	固定前後，標本で測定した tumor thickness の相関	1. 主 要　2. 副 次　3. そ の 他 （ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	腫瘍の切除に伴い緊張がなくなることで高周波エコーでの tumor thickness の測定値が術前より増加する。その後の固定によって収縮し術前の高周波エコーでの測定値より組織学的な tumor thickness はごくわずか縮小するが，全体としては相関（ r =0.98）している	
	結論	腫瘍切除後に緊張がなくなることと，固定操作は互いに相殺し，全体的にはエコーでの測定値と組織学的な測定値とは良好な相関がみられる。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	林　宏一
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（V） 多数例を分析し相関係数を計算しており、かつ内容は普遍的なものと考えられ、優れた研究である。

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	悪性黒色腫の術前評価における MRI の有用性 –原発巣の厚さの測定による病期の推定-	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ6-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID	1996151281	
	雑誌名	日本皮膚科学雑誌	
	雑誌 ID		
	巻	105	
	号	14	
	ページ	1837-1843	
	ISSN ナンバー	0021-499X	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1995	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	八田尚人	金沢大学医学部皮膚科学教室
	その他著者 1	酒井秀彰	金沢大学医学部皮膚科学教室
	その他著者 2	高田　実	金沢大学医学部皮膚科学教室
	その他著者 3	竹原和彦	金沢大学医学部皮膚科学教室
	その他著者 4	角谷眞澄	金沢大学医学部放射線医学教室
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	悪性黒色腫の術前評価における MRI の有用性を検討する	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	大学病院	
	対象者	悪性黒色腫患者　１８名	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 1 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 1 5 ）	
	介入（要因曝露）	悪性黒色腫原発巣の厚さ，浸潤レベルを術前に MRI を用い評価し，切除後に得られた組織学的な厚さと比較した。	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	病期	1. 主 要　2. 副 次　3. そ の 他 （ 1 ）
	2	tumor thickness	1.主要 2.副次 3.その他（ 2）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	爪の in situ の 2 例以外は MRI による評価が可能であった。 皮下組織への浸潤の有無については全例で評価が可能であった。 組織学的に得られた腫瘍の厚さと MRI により得られた腫瘍の厚さはよく相関した（R＝0.963）	
	結論	MRI の所見から推定した病期は術後病期と 16 例中 15 例が一致し，術前評価に有用であることが示唆された。2mm 以下の病変の測定は誤差が多く実用的ではない印象を受けた。組織の切り出し面と MRI のスライス面が必ずしも一致しないことが誤差を生じる要因となり，評価を慎重に行う必要がある。MRI における信号強度は撮影条件，他の要因の影響によって変化する。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	林　宏一
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ⅠⅤ） 例数が少なく症例集積研究あるいは記述研究ともとれるが、ＭＲＩからの推定病期と術後病期の相関を検討しており、症例対照研究に準ずる優れた研究と評価した。

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	エコーによる悪性黒色腫原発巣の厚さ計測．皮膚科診療プラクティス　14 機器を用いたスキンクリニック	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ6-5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅴ　）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名		
	雑誌 ID		
	巻		
	号		
	ページ	137	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　1　）	
	発行年月	2002	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	林　宏一	信州大学医学部皮膚科
	その他著者 1		
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的		
	研究デザイン	症例報告およびレビュー	
	セッティング	大学病院	
	対象者		
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（　1）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（　）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（　）	
	介入（要因曝露）		
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶｳﾑ）	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	高周波エコーでの tumor thickness は 4mm までは比較的よく相関し，特に 2mm 以下では MRI に比べ描出力に優れ，組織学的な tumor thickness との一致度も高かった。	
	結論		
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	林　宏一	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（V）	

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	The relationship between biopsy technique and uncertainty in the histopathologic diagnosis of melanoma.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ7-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅳ　）	
	Pubmed ID	10673457	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Dermatol Online J.	
	雑誌 ID		
	巻	5	
	号	2	
	ページ	4	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2　）	
	発行年月	1999	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Pariser RJ	Eastern Virginia Medical School
	その他著者 1	Divers A	同上
	その他著者 2	Nassar A	同上
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	生検の種類と病理組織検査の不確実性との関係を評価する	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	私的皮膚病理検査機関	
	対象者	1988 から 1997 までの 525 検体	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（　2　）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（　3　）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（　22　）	
	介入（要因曝露）	生検のタイプとして以下の 6 種類：excisional、punch、shave、deep shave、curettage、unknown	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶｳﾑ）	エンドポイント	区分
	1	病理組織診断の程度	1.主要 2.副次 3.その他（　1　）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	病理組織検査で「悪性黒色腫といってよいだろうが、疑問点が残る」と判定された割合は、excisional 9%、deep shave　11%、shave21%、punch23%であった。	
	結論	色素性病変では punch　biopsy は避けるべきであろう。Shave でも十分深ければ excisional とほぼ同等に評価できる。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　Ⅳ　）	

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Sensitivity of diagnosis of malignant melanoma: a clinicopathologic study with a critical assessment of biopsy techniques	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での日次名称	MMCQ7-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	1365317	
	医中誌 ID		
	雑誌名		
	雑誌 ID		
	巻	1	
	号	4	
	ページ	170-5	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1992 Nov	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Witheiler DD	University of Texas Southwestern Medical Center
	その他著者 1	Cockerell CJ	同上
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の８項目			
	目的	黒色腫を疑わずに生検された検体の生検手技の評価と、そのような検体が正確に診断される頻度を検討する	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	University of Texas Southwestern	
	対象者	1985 年から 1990 年までに診断された 1784 検体	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 22 ）	
	介入（要因曝露）	shave 、excisional 、punch 、curettage 、不明	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	正確な診断	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	1784 検体中 583 検体は黒色腫を疑わずに生検された。それらの生検手技の内訳は shave 56%、excisional 24%、punch 11%、curettage 2%、不明 6%であった。 正確な診断に至ったのは shave biopsy で 86%あったのに対し、punch biopsy では 32%、curettage では 0%であった。	
	結論	幅 5 から 6mmで、少なくとも真皮網状層の真ん中ほどまで含まれている検体であればほとんどの症例で典型的な像を呈し、臨床的に黒色腫が疑われなかった症例でも診断にいたるであろう。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ）